

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	わくわくクラブ千里丘校・児童発達支援		
○保護者評価実施期間	2024年12月11日 ～ 2025年1月15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 4名
○従業者評価実施期間	2024年12月11日 ～ 2025年1月15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 30日		

○分析結果

	事業所の強み(※) と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・一人ひとりに合わせたカリキュラムにより スモールステップで発達支援のアプローチができる	・子ども達が楽しく取り組んでいる間に自然と様々な 発達が促されている取り組み ・苦手なことも楽しみながらスモールステップで 挑戦し成功体験を積み重ねることができる取り組み	・子どもたちが楽しく取り組めるように 一人ひとりに合わせてスモールステップの カリキュラム内容を考案し続けていく ・保護者の方との情報共有を密に行い 毎回の活動内容に活かしていく
2	・関係機関(園・学校・相談支援員・病院等) との連携に力を入れている	・関係機関と連携することで事業所外の様子を知り 事業所内での発達支援アプローチに活かしている ・児童の将来に繋がる取り組みを意識した カリキュラム内容 ・対応について関係機関と連携しながら進めている	・関係機関との情報共有を定期的に行い 共通認識を持った上で家族支援をおこなっていく ・事業所を併用している児童については 事業所間の連携を強化していく
3	・発達支援を行う上で様々な視点で 子どもたちとご家族をサポートすることができる	・スタッフの専門性を活かしてより 良い発達支援内容を考えている ・在籍している心理士、保育士、それぞれの視点を 共有してアプローチしている	・様々な視点から子どもたちの発達を考えることが できる体制を強化するため内部だけでなく 外部の方の視点も取り入れる機会を作っていく

	事業所の弱み(※) と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの 専門職を配置していないため専門的な支援を 提供する体制を整えている事業所と比較された時 専門的なアプローチが弱くなる	・理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの 専門的アプローチがより良い発達支援を おこなうために必要だと考えており 事業所として高めていきたい内容である	・各市や関係機関の専門職(理学療法士、作業療法士 言語聴覚士)との連携を継続する ・定期的に専門職の方が開催している研修会に参加し 事業所としての専門性を高めていく
2	・教室の構造上完全個室は一部のみである ・その他はパーティション等を使用して 個室環境の設定している	・パーティション等を使用した個室環境では 周囲の音が気になってしまう児童もいるため 環境設定やカリキュラムに工夫が必要だと考えている	・パーティション等を使用した個室環境を プラスに捉えた活動内容を充実させていく
3	・利用児童と地域との交流が弱いため 地域との交流を意識した取り組みを考えていく	・近隣市から通所し自分の住んでいる地域 とはならない児童もいるため地域交流に 力を注いでいなかった	・地域の児童福祉施設や児童が通所している園との 交流や地域のイベントに参加地域の方を 事業所に招く等地域との交流を検討し強化していく